

第3回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和7年10月27日（月）午前10時00分～午前11時45分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室7
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、高島委員、永尾委員、椎野委員、島田委員、安藤委員
事務局：草柳課長、八田副課長、城戸主査、菊地主事
- 4 欠席者：北村委員、田代委員
- 5 資料：
 - ・次第
 - ・資料1-1 施設利用状況（令和7年度上半期）
 - ・資料1-2 市民活動団体分野別登録状況内訳（令和7年9月末時点）
 - ・資料1-3 おだわら市民交流センターUMECOへのご意見・ご要望（令和7年4～9月分）
 - ・資料1-4 令和7年度おだわら市民交流センターUMECO実施事業中間報告
 - ・資料1-5 指摘事項に係る対応状況
 - ・資料2-1 地域アクションいきいき補助金について
 - ・資料2-2 本市における地域活動と市民活動の補助金比較表
 - ・資料2-3 補助制度の拡充 他自治体の一例について

6 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）おだわら市民交流センターUMECO令和7年度中間報告について

委員長：議題（1）おだわら市民交流センターUMECO令和7年度中間報告について、に入る。
本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができることから、おだわら市民交流センターの指定管理者に御出席いただく。それでは、本議題について、指定管理者から御説明をお願いしたい。
（指定管理者 資料1-1～1-5に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：アンケートは有効な手段だが、回収後のデータを今後活かす取り組みはあるのか。

指定管理者：アンケートについて、回収率が低いという課題がある。これを改善するため、回答しやすい設問形式の採用や意見記載欄を設けるなど、工夫を行っている。また、アンケート結果については、次年度の事業に反映するように取り組んでいるのに加えて、スタッフ内で共有を行い、改善に活用している。

委員：アンケートの設問内容に関しても工夫が必要である。また、本音を引き出すために、年齢や職業、性別の記入欄が必要か否についても考える必要がある。回収率を上げるために、ノベルティの提供も有効な手段だが、この点についてはどのように考えているか。

指定管理者：まずアンケートについては、回答しやすい形を最優先にしているため、以前設けていた男女別や年齢などの記入欄は現在削除している。また、ノベルティの提供については、費用面の問題があるため、可能な範囲で対応を進めたいと考えている。

委員：資料1-1について、今回は中間報告という形式で提出されているが、最終的には1年間を通した内容となると思う。例えばグラフについて、1年間の推移が昨年度のデータと比較することで、視覚的に分かりやすくなると思う。また、平日昼間の稼働率についても、時間帯や曜日によって差があるはずである。課題を特定するために、より細分化された情報が必要と考える。

指定管理者：ぜひ取り組ませていただきたい。平日と休日の利用状況については、休日利用の方が少ない。平日の昼間の利用はほとんど常連として定着しており、休日については飛び込みの利用が多い。指摘いただいた資料の細分化については、今後考慮させていただく。

委員：資料1-3～1-5について、対応自体は正しいと考えられるが、寄り添う姿勢を重視する観点では、対応方法や記載方法に改善の余地があると思う。例えば、UMECOに登録

をしない団体について、単純な登録忘れ以外に、UMECOに登録する価値を感じられずに、登録をしていない可能性も考えられる。相談件数が減少しているという話もあるため、機能面の改善だけでなく、情緒面の改善もあってもよいと感じた。

指定管理者：資料1-3の「予約したつもりができていなかった」とのケースについて、寄り添いながら対応しているが、抽選当選後に手続きを完了していない場合は対処ができないため、丁寧に今後の注意をしている。新規登録では、現行システムが複雑であることや利用者は市民活動団体としての登録に加え、市の予約システムへの登録とID取得が必要であることが手間になっている。更新手続きについては、1か月半の期間を設けているものの、見落とす団体が一定数あるため、催促メールや情報誌へのお願い書貼付などの対応を行っている。登録条件は、企業や宗教的・政治的な問題に関わる団体を除き、ほとんど無条件で登録を行っており、今後も登録しやすい方法を検討していく。

委員：資料1-4の「12 若者の市民活動の支援」について、現在登録している大学生や高校生のサークルにとってUMECOは利用しやすい状況であるのか。

指定管理者：学生の登録状況としては、現在のところ高校生の一部や部活のようなところはある。大学生は以前登録があったが現在は無い。若い世代の団体としては、ボランティア活動や市民活動団体がいくつかある。若い方は自分たちの活動を広げていきたい意欲があり、私どもとしては、できるだけ寄り添い、彼らをより引き入れていきたいと考えている。課題としては、活動している人の多くがシニア層で、若い世代がついていけない状況があるため、できるだけ若い方に相談しながら、進めていきたいと考えている。

委員：情報発信に関しては、若い人に任せる、あるいは事務局側の立場として参加してもらおうといった工夫も含めて検討していただきたい。

委員：資料1-4の「1 UMECO企画展」及び「2 アクティブサロン」について、どちらもアンケート回収数が「260」であるが、これは両方を含めた数字であるか。

指定管理者：そのとおり、まとめて処理している。

委員：承知した。アンケートについては、結果を踏まえた上で、どのように展開するかという振り返りが重要であるので、お願いしたい。また、現在最も重要であるのが「7 地域とのネットワーク」と考える。この中では各地域のまちづくり委員会が非常に大きな役割を果たしている。成果欄の機能面に、「地域の事業者の夏祭りへ団体が参加協力した」と素晴らしい記載があるが、これは事業者と団体のどちらから声があったのか。

指定管理者：事業所から協力依頼があった。具体的には、UMECOの隣にあるミナカから、盆踊りを企画しているため、盆踊りを指導、参加してくれる団体はないかとの相談を受けた。UMECO登録団体である日本舞踊の団体に確認を取り、御紹介して参加いただいた。

委員：今後地域とのネットワークは非常に重要であり、若者たちと地域がそのような活動で密着して行動していただくと、地域が盛り上がっていくと思われ、期待している。また、これから先、ボランティアや市民活動を担う上で若者の力が必要であり、楽しさを共有しながら参加者を増やすことが大切である。自身の活動では、まちづくり委員会と密接な関係を築き、若者と一緒に活動する場を設けている。過去に実施したことがあるが、例えば、まちづくり委員会に行き、市民活動の説明を行ったりしてきっかけ作るのも良いと思う。年間計画としてどのくらいのスパンでいくのかなど、構想はあるか。

指定管理者：地域とのネットワークを強化するため、まちづくり委員会では、連合自治会（26団体）との直接対話を目指しているが、1年で全地域と交流するのは難しいと考えている。また、この案内を通じて地域ニーズを把握したいと考えている。紙ベースでの案内を活用し、高齢者などからのニーズを掴みたいと考えている。また現状では地域の中でUMECOの認知度が低く、活動内容の周知や自治会との協力関係の強化が課題である。過去には、敬老会で団体がパフォーマンスを行った活動例がある。今年度には高校生が地域の夏祭りのボランティアを希望し、自治会から許可が出たものの、高校の予定が重なり実現しなかった。また、地域から御輿担ぎ手不足の相談があり、UMECOで情報発信を申し出たが、地区内限定の条件があり難しかった。地域には様々な困り事が存在して

おり、情報収集と協力可能な範囲での支援を進めたいと考えている。

委員：若者の関わりについて、近隣の学校とのつながった結果、夏休みボランティア体験学習への参加につながったとの話があった。しかし、参加したかが重要なのではなく、この若者たちにとって、どのような良い結果が生まれ、それが彼らの将来の人生にどのようにプラスとなったのかが重要だと考える。学生や中高生の夏休みボランティア体験学習は、かなり前に神奈川県青少年協会が推進したことをきっかけに、各市町村の中間支援センターが展開してきた。しかし、中高生の参加が減少している現状から結果として離脱する地域が増えている。一方で、藤沢市のように、若者のインターンシップという形で事業を展開している自治体も存在する。資料1-4の「12 若者市民活動参加の支援」について、今年度のインターンシップに申し込みがなかったとのことだが、これまでのインターンシップでは具体的にどのような活動を行っていたのか。これは、UMECOでのインターンシップであったのか。

指定管理者：UMECOへインターンとして来られたことを話している。

委員：このインターンシップは、UMECOでの活動に限定されるものではない。小田原には、若い世代による多様で興味深い活動を行う団体が数多く存在している。UMECOは学生とこれらの団体を結び付け、活動の場を提供するのが望ましい。また、その結果として、地域の資源が有効活用されることになる。また、資料1-4の「16 国際交流」について、3月21日に予定されている国際交流フェスタは、外国籍市民が幅広く交流を深める機会となるとともに、市民のニーズを聞き取る場としても活用することを期待する。そのためには担当課とUMECOが連携し、市民の声を拾い上げる仕組みを検討する必要がある。最後に、資料1-5の4～6に関連する相談事業について、スタッフのスキルアップのために外部の研修を活用するという方針が示されているが、具体的にどのような外部研修及び研修内容であるのかを教えてほしい。

指定管理者：インターンに関する活動は、団体にボランティア募集を行い、それを組み込む方向で進めている。夏休みボランティア体験学習については、参加を目的とせず、ボランティア精神を市民活動精神へとつなげることを目指している。社会情勢の変化に対応した改善が必要である。また、体験内容については「つまらない」との意見もあり、継続と工夫が求められる。加えて、県が行う相談窓口や研修会にスタッフを参加させ、毎年2人程度を送り込むことでスキル向上を図っている。相談対応の方法を学び、スタッフの能力を高める取り組みを進めている。

委員：外部研修について、ソーシャルコーディネートかながわと県が協力で行う相談スキルアップ研修を指していると思うが、今年は実施されない。UMECOが独自に研修を企画し講師派遣の依頼を行うのであれば、対応可能と思われるので、積極的に働きかけていただきたい。実際、ソーシャルコーディネートかながわの窓口では小田原方面からの相談がある。実際相談を聞いてみると、UMECOがもう少し頑張れば解決できた内容もあるので、本腰を入れて頑張っていただきたい。

指定管理者：そこは心がけて進めていきたいと考えている。過去にソーシャルコーディネートかながわにお願いして、研修会を実施していただいた経験もあるため、今後の課題として検討を進めていきたい。

委員：資料1-4の「1 UMECO企画展」について、達成率52%とある。この数字はどのようにして算出されたのか。

指定管理者：先ほど確認し直した際、達成率について計算ミスがあることに気づいた。申し訳ない。

委員：後ほど訂正をお願いしたい。また、先ほどの相談に関する話題に関連して、「4 相談業務」について、先日県の専門相談員が来訪し、6団体が参加したという報告があった。参加した団体の反応やすべての枠が埋まったという状況からも、ニーズがあると考えられる。この点について、今後の展開について予定があれば伺いたい。

指定管理者：今回の県による相談会は、非常に有益であり、小田原での開催は私どもや参加団体にとって非常にありがたかった。スキルアップにもつながるため、頻繁な開催は難しいにせ

よ、年1回程度このような機会があることは望ましいと考え、県と今後相談していきたい。今回の参加団体には、小田原市のみならず隣接する開成町の団体も含まれ、県西エリア全体へ広がりを見せる形となれば非常に意義深いものになると考える。実際に参加した団体からも「参加してよかった」「相談してよかった」との声が寄せられている。参加団体には、随時相談を受け付けていく旨を伝えている。

委員：これを踏まえて今後の展開も検討いただければと思う。資料1-4の「17 情報発信」のホームページ閲覧調査について、対象者や具体的な調査手法を教えてほしい。

指定管理者：基本的には機械的にホームページのアクセス調査をネット上で行う。閲覧データは取得可能であり、その調査を考えている。内容についてはアンケート形式で調査せざるを得ない可能性がある。現在、UMECOホームページへの月間アクセス数は約2万件であり、そのうち半数以上が会議室予約関連だと推測している。データ区分けの方法を検討しており、必要に応じて開発会社に相談する予定である。

委員：ページビュー及び各ページの具体的な閲覧内容の分析が求められる。また、ホームページの一般認知度や閲覧状況について、利用者の意見のみではなく、一般的な意見も含めての内容を検討していただきたい。次に、資料1-5の「12 パートナーシップミーティング」について、今年度までが県の補助金による取り組みであると説明を受けた。この取り組みを通じて、企業側のニーズや課題感をどの程度把握できているのか気になる。一過性のマッチングに留まるのではなく、企業側や市民団体側のニーズを継続的に把握し、それを踏まえた長期的なマッチングを進めることが望ましい。今後の実施方法については、来年度を見据えて、その手法をより適切なものに改善していく必要がある。

指定管理者：企業の参加理由については、事前の申込フォームやアンケートの回答で伺っている。現在でも企業と団体が継続的な関係を維持している事例も存在するため、その点を重要視していきたいと考える。

委員：パートナーシップミーティングには、どのような企業が参加したのか。

指定管理者：製造業やIT企業など多様な企業の参加があった。地域についても、小田原市に限らず、広い範囲で参加があった。今年は、企業では花王に取り組んでいるSDGsや環境事業等について発表をしていただき、他主体とのつながりを持つ機会を提供した。

委員：やはり大企業や中小企業を含めて認知を広めていただいた方が、企業側の方もそれに基づいて、社内のCSR活動のところで補助金など出てきたりするので、マッチングをより進めていただきたい。

委員：インターンシップの申し込みが今年なかったことについて、これは自身の定年によりゼミ生を新規募集していないことから学生を派遣できなかったことが原因の一つである。これまで多くのゼミ生がインターンシップを経験してきた。また、先に委員から話があったように、UMECOにおけるインターンシップに加えて、UMECOが学生や生徒の関心に応じた団体を紹介するというのが良いと思う。また、紹介数については実績になると考える。これまで、学生自身で特定の団体を調べてインターンシップとして受け入れてもらうケースもあった。先ほど紹介があった藤沢の若者インターンシップについて、私も関わっているので、後日資料をお持ちすることも可能である。この取り組みは、高校生や大学生と藤沢市を中心に近隣の団体とマッチングを行い、参加者主体で進める形である。期間は長いですが、定例会で情報交換し、成果発表会を実施するなど意義深い活動となっている。また、活動後も参加者が社会人として関わり、世代間循環が形成されている。この取り組みがさらに発展すれば、より良い成果を生むと考える。ぜひ御検討いただきたい。

■ 議題（2）諮問事項「市民活動のさらなる展開を促進するための支援の充実について」

委員長：議題（2）諮問事項「市民活動のさらなる展開を促進するための支援の充実について」、事務局から御説明をお願いしたい。

（事務局 資料2-1～2-3に基づいて説明）

- 委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。
- 委員：別の市の事例について、相手先の担当者にこの補助金を活用してどのような成果が出たのか、また運用上の課題について、ぜひヒアリングしていただきたい。
- 事務局：成果と課題について調査を行う。また、プレゼンテーションを廃止した理由やそもそも元々存在していたのかといった点も併せて調査する。
- 委員：成果について、例えば報告会の形式やネット上での共有方法など、どのように扱っているのかについても調査をお願いしたい。また、地域アクションいきいき補助金について、14件相談があった中で、実際に申請したのは6団体との話があった。すべて申請が通ったとのことだが、この6件で予算の40万円を使い果たしたのか。
- 事務局：1件の上限額は4万円であるため、現在6件で計24万円となる。したがって、残りの額は16万円である。そのため、あと4件を受けることが可能である。
- 委員：では、12月26日までに出せば間に合うのか。
- 事務局：そのとおりであると思う。
- 委員：この補助金について、活用団体に実際に活用してみて良かった点や補助金を活用した理由、また改善点など意見を伺いたい。
- 事務局：これから実績報告書が出てくるので、運用している係に話をし、その内容を何かしらの形で資料に落とし込むことを考えている。また、団体の声の調査を実施することになると思うが、開始したばかりの制度のため、どのような調査を行うのかについて断定的なことは言えない。内部で確認を行い、利用者の声を抽出できるよう検討していきたい。
- 委員：資料2-1の「9 交付事業の概要」(3)について、団体名が「おだわらノオト」とある。その他の団体は地域名が入っているが、この団体は早川地区のみで活動しているのか、それともそれ以外に広げて活動しているのか。
- 委員：こちらの団体はできたばかりで、現在は早川地区に特化して活動している。
- 委員：今後その活動を発展させ、早川地区以外でも展開するようになると、地域アクションいきいき補助金ではなく、市民活動・協働応援制度補助金に申請される可能性もある。それについては、ある意味期待できると言える。
- 事務局：地域アクションいきいき補助金は、地域を限定した活動について、まずは1歩踏み出してみるために、お気軽にお使いいただける補助金制度である。実際に相談を受けたところ、市民活動の内容の相談も多かったと担当係から聞いている。市民活動・協働応援制度補助金に展開するような内容があるかもしれない。ただ、始まったばかりの制度なので、今後の展開にもよるが、市民活動・協働応援制度補助金のあり方も合わせて市民活動推進委員会で審議をしていただきたいと思いますと考えている。
- 委員：この2年間でどのような形で新しいメニューを作るのか、地域アクションいきいき補助金との制度間のつながりについても、検討したいと考えている。

■ その他

委員長：その他について、事務局からお願いします。

(事務局 今後の会議日程の調整)

※調整の結果、今後の会議日程及び場所は次のとおりとなった。

第4回委員会・・・12月22日(月)午前 UMECO

第5回委員会・・・2月13日(金)午後 UMECO

第6回委員会・・・3月7日(土)終日 UMECO

■ 閉会